midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

December 2014 No.386-387

１２月号の１枚：秋の嵐山と相模湖大橋

「緑のダム・北相模」の若者たち（１）

若者たちの動きに「自分たちが主役」と言うような自覚がみられる

活動の16年目を向かえた一昨年の総会で「これから１５年目標:[1]若者たちによる森つくり拡充を（後継者育成）→ [2]流域サプライチェーン（森林・林業の復権）」とした。２年４カ月が経過して若者たちの動きに「自分たちが主役」と言うような自覚がみられる。

○小学生：地元の桂北小や相模原市内のいくつかの小学校とは、森林体験学校や木工品工作指導など交流が広がりつつある。例えば、桂北小出身で北相中のＫ君は熱心で、暫くぶりに姿を見せ、お久しぶりと言う事で、朝礼で挨拶をしてもらった。身体も大きく逞しくなっており「僕が大人になったら、森を守る人になります」と堂々と宣言して大拍手を受けた。

○中学生：なみすけの森（杉並区立高井戸中・地球環境部）、「地球環境部」とは大きく出たなと思う。参加５年目だが、[1]杉並区から表彰を受けた。[2]コカコーラ環境教育優秀賞　[3]ＪＡＸＡの指導で森の積み木で、はやぶさを組み立て、相模原市の環境まつりに出品した。開発研究者に学校まで来て頂いてイオンエンジンの仕組みから学び始めた。[4]東京駅丸の内の改修完成記念として「森の積み木３万個」を使って東京駅構内で通行人を巻き込んで模型を完成させた。この１０月の定例活動日の森の現場で中学生たちは、６０年生の間伐材（４m）を径路まで搬出作業をしていた。チョッと一休みの時に、「この丸太の容積は，どの位だろうねぇ～」、「根元の方は大きいし、先の方は少し細いし、どうしたらわかるの？」。それを聞いていた指導・顧問の教師が「ヨーシ、学校での次の部活時間に、どうしたら分かるか皆で考えて見よう」。顧問の若い教師は、あらゆるところで異能ぶりを見せてくれる。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2014.12

12月 7日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

12月21日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

11月2日（第一日曜日）

今月の小原定例活動では、ForestNova☆からは十名が参加し、緑のダムの方々と高井戸中学校の子達と一緒にハイキングコース調査を行う班、小原宿本陣祭で使用する箸材を嵐山で加工を行う班に分かれて活動しました。

ハイキングコース調査は、この前の活動の時も行い、その時には地図を見ながら歩いたのですが、下りたい道へ合流する場所が分からず、底沢の奥の方まで下ってしまいました。それにより予定より二時間ほど長くかかってしまったので、地図に載っている合流地点がどこなのかを確認する為に行いました。
今回の活動では、この前の活動とは別の場所から登り、途中で道が荒れているところを整備、道標がある場所をGPSで記録しながら登りました。

結果として、今回もまた底沢の奥の方まで下りてしまいましたが、この前とは違いどこが正しいルートなのかという見当がつきました。しかし、地図に書いてある合流地点は目印がなく合流したかも分かり辛いのに対し、毎回間違ってしまう方はそこでコースが合流しているかのように思えるほど道が綺麗なので、ついつい間違ってしまいます。今後、道を間違わないようにする為には、今までとは逆ルートから合流地点へ登る事だと思いました。そうする事で、今回の活動で見当をつけた場所が正しいのかの確認も行える為、今後は迷い難くなると思います。今回の活動で改めて道標の大切さが分かり、孫山に人が来てくれるように早く立てなければと思いました。

また、嵐山での活動では、小原宿本陣祭に向けて最終準備に取りかかりました。Forest Nova☆は今年も去年に引き続き箸作りブースを出させて頂くことになり、その為の箸材が百本程必要です。この日は嵐山のモマ工房で、事前に細く切ってあった箸材を、更に鉈や鉋を使って削っていきました。本陣祭当日はお客様に鑢でやする程度で完成するよう、ある程度の細さになるまで丁寧に削っていきます。削りづらい節の部分は自然の木の良さを感じるワンポイントとして、あえて残したりもしました。一本にじっくり時間をかけ、黙々と作業を進めていくメンバー。その甲斐もあり、当日十分なだけの箸材を用意する事ができました。どれ一つとして同じものはなく、一本一本に個性がある箸材。削れば削るほどヒノキの良い香りが漂い、当日のお客様の笑顔を思い浮かべながら、楽しく作業できた一日でした。

中嶋竜太、西田朋世
（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

11月16日（第三日曜日）

この日はいつも元気な高井戸中が試験週間。加えてフォレストノバ代表の山田君、釜谷君の両名も不参加。ということでメンバーは５９名。いつもよりちょっと少なめだが、大事なのは活動の中身、ですよね。

朝礼時、遠くはるばる沖縄からやってきた国内留学生と女子美の学生をまず紹介。トレカーサ工事の奥田さんたちによる草木染めの話もあったが、その間、彼女たちの小さな娘さんたちは周囲を無邪気に走りまわっている。こんな頃から森に親しむっていいなあ。心なごむひととき。

このところ自分たちばかりでなく各班に分かれて作業を行っているフォレストノバだが、今日も同じ。材仮置き場の梁を切るため苦戦している者もいれば、クリスマス用の「サンタマルタ」づくりに余念のない者もいる。「サンタマルタ」とはコロンンビア北部の地名のようだが、実はクリスマスに飾るための木のサンタクロースの意。それらをたくさん制作しなければならないらしい。私はノバの森へ向かい、これから伐倒するスギの選木を行っているグループに合流。ここにはノバＯＢの神宮さんも加わっていた。皆で話し合いながら選木を行っている様子は熱心であり微笑ましくも思う。（次ページ、右列、中）ノバの森もだんだん立派になっていきそうな気配。お花畑班はその間、道路に溜まった枯れ葉の清掃を行っていたようである。この葉は後ほどカブトムシ幼虫の餌になる予定。

昼食後はいよいよ待ちに待った草木染め体験が始まる。ドングリやスギの葉など、近くにある植物に加え

て日本茶、紅茶なども混合。さて、どんな色に染まることやら。湯気と煙の立ち昇る鍋に様々な布を浸してから乾燥させる。ハンカチや手ぬぐい、帽子、果てはセーターまで。色はどうやら薄茶色のよう。作品は終礼時に披露されることになる。（右列、下）

この頃、望星の森では２００６年に植栽したトチノキの間伐が行われていた。（左列、下）樹木間の枝が繁ってしまい、林床の植生が乏しくなってしまったことが間伐の理由。広葉樹に関する先行研究のない中、この森をどのような姿に導いていくかが今後の課題となる。さて、森林整備班であるが、先月に引き続き間伐材降ろしを続行（右列、上）。午前、午後合わせ何と１４本もの材を降ろした模様。お花畑班の午後はもっぱらカブトムシ牧場で出来あがった腐葉土を畑にすき込んだり、その際に出て来るカブトムシの幼虫を別の場所に引っ越しさせたりと大忙し。仮置き場予定地では柱材や梁材の墨付けが行われていた。（左列、上）

参加人数こそ少ない本日の活動だったが、各班それぞれいつも以上に精力的に動いていたように思う。いつ、いかなる時でも自分たちが為すべきことを為す。その姿勢が如実に伝わって来るような一日であった。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
緑のダム運動、河口湖の森より「自然の恵みに感謝・後編」

郷里では、幼いころから父親から教えられ、薪つくりや植林，椎茸を栽培したり、炭焼きを手伝って里山に育った私にとって、富士河口湖の山々は、「宝の山」に見えますが、山に分け入ってみると、ほとんど手が付けられず，藤弦やツタが巻き付いて荒れ放題になっています。
二年ほど前から「天上山」と共に、地元から依頼された里山の、環境保全活動を考慮して、食堂では薪ストーブを使用し、家族が生活する家族寮では。ウッドボイラーを使って床暖房の生活で、こたつや石油ストーブは殆ど使用せず、山から伐り出した用材を薪にして、環境に優しい木質バイオマス燃料で快適に冬を過ごしながら、自然の恵みを心から感謝しています。

椎の木などが現生する、広葉樹林の雑木林は、伐採木から芽を（ひこばえ）を出して森林が蘇生しますが、長い間放置された木からは、新芽を出しても蘇生できないようです。木を伐採した後は、クヌギ等広葉樹の植樹を楽しく行っています。近所の子供たちと一緒に木を植え、将来カブト虫等が生息し、多くの生物が多様に生きる楽しい、強い森つくりを目指して活動を続けて参ります。

杉やヒノキなどの針葉樹林が広がる森林も先人たちが植林されたものでしょうが、殆ど手入れ成されず蔦などが絡んで荒れ放題です。蔦の根元などを切り、間伐材として建築用材として使用していますが、あまり進んでいないのが現状です。国土の約７０％が森林と言われる日本に於いて素晴らしい資源が有効活用されることを願っています。

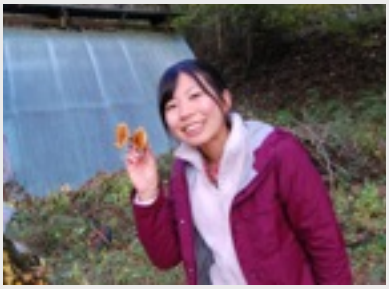
岩本　悟（富士河口湖能力開発センター研修所長）

[連載１]

緑のダム、リレーエッセイ

「楽しく、休まず、ボチボチな人々」

麻布大学卒業生、元Forest Nova☆の神宮です。今年の春頃から相模原市内の木材問屋で営業をしていまして、少量ですが、神奈川の木の取り扱いもしております。林業程ではないですが中々に



男社会で、「見て覚えろ」な世界で、日々四苦八苦しております。

卒業後2年程は栃木県茂木町の自然体験施設で森の案内をしておりました。里山の自然がとても素敵な場所で、町の人々は山の合間の棚田で稲作を行い、秋には落ち葉で堆肥を作り、軒先に吊るされた干し柿が冬を待ちます。夏はアパート裏の小川でホタルを眺め、3種のカエルの大合唱を聞きながら寝る、という贅沢な生活を楽しんでいました。職場では子どもたちと森で過ごし、どきどきするような生きもの達の一瞬に出会うこともありました。けれどそこは山に囲まれた広大なサーキット場の敷地内の一角という閉じた場所にあり、森を伝える私たちは、その森の隣で暮らしてきた人たちの顔を知らず、町に放置林や休耕田が増えていても施設の外へ干渉することはありません。もどかしい気持ちもあり、職場から眺める隣の山がずいぶんと遠くに感じたりもしました。もし相模湖で活動し、地元の方々と話をすることがなかったら、こうは思わなかったかもしれません。

最近は嵐山の活動にも参加させて頂いております。ノバのOBも増えてきましたし、徐々にでもOBとしてできること、やりたいことを始めていけたらなぁと思っています。

それでは、今後ともよろしくお願いいたします。

神宮　理沙（本会、会員）

[報告２]

ありがとうの気持ち

日に日に寒さが増し、家の温かさが身に染み渡る季節となりました。私たちForestNova☆は、毎年十一月三日に相模原市緑区の小原地域で行われる小原宿本陣祭に、今年も参加。感謝の思いが溢れる、大切な思い出を刻むことができました。

私たちは毎月二回、若柳・嵐山の森と、小原地域にある森の二箇所で活動させていただいていますが、活動ができるのは沢山の人の協力があってこそ。特になかなか会う機会のない小原の方々に、いつも思っているこの感謝の気持ちを伝えたい。そんな思いから、本陣祭への出展を試みることになりました。本陣祭には毎年ブース出展をさせていただいていますが、それも今年で四年目です。私たちのブースを出したいという申し出に、快く受け入れてくださる小原の皆さんの姿をみると、感謝の気持ちでいっぱいになります。

企画を取り掛かる前に、一年生が小原の方々をあまり知らないという事で、小原の方々とのご飯会を開きました。ForestNova☆は手作りのカレー、小原の方々はご飯などをそれぞれ持ち寄り囲み団欒。家族のような幸せな時間を過ごしました。

そして、本陣祭当日では箸作りのブースを出展。地元の人、地方の人、老若男女様々な人が来てくださり、アットホームなブースにできました。また、小原の小林元会長には「よく来たね、たくさん食べていってね」と、ご馳走を振舞っていただき、色々な話をすることができました。

本陣祭が終わったあとは、集会所で小原の方々とおつかれさま会。小原のお母さん方が用意してくれたご

飯を囲みながら、まるで皆が親戚かのように楽しくお話をしました。朗らかな笑い声と、温かな話し声がいつまでも響き渡っていました。

後日、私たちは嵐山の山主である鈴木さんに、日々の感謝を伝える為、本陣祭の報告と、木で作った箸と、活動のアルバムを渡しました。鈴木さんは喜んで受け取ってくださり、「ありがとうね」と、言ってくださいました。その時ふと、この感謝の気持ちは、意図せずともちゃんと相手に伝わっていると感じました。本陣祭だけでなくとも、この感謝の気持ちがちゃんと届いているのか不安で仕方なかった私にとって、その事実は何よりの救いでした。

一連を通し気づいたことは、ありがとうという気持ちは知らないうちに相手に伝わり、そしてその相手も知らないうちにありがとうと思ってくれているということです。この気持ちをいつまでも大切にしていきたい、そう強く思いました。これからも温かさを忘れず、大切なもののために励んでまいります。

世持　由美子（Forest Nova）

[連載２]
相模湖・若者の森づくりから

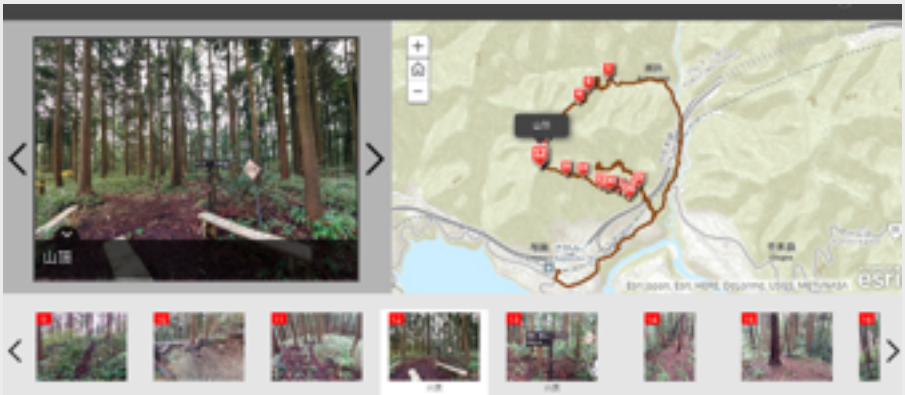
今月の小原本陣の森の活動では、ガーミン製のハンディGPSを持って、ハイキングコースの探索をしました。わかりづらいところやポイントごとにGPS付きスマホで写真を撮ります。写真はスマホのカメラの位置情報をオンにするだけで撮ることができます。標識や道が２つに分かれているところ、適当な道で山頂方向と麓方向を向いたときの２種類など撮っています。基本は２台で同じ場所を撮る様にしています。そうすることで１台の位置情報が間違っていても、もう１台の方で補うことができます。その様にして撮った写真とその位置情報を基にArcGISで地図をつくろうというものです。

頂上までは順調に登れました。しかし全員で山を下っていたはずが、途中で本隊とはぐれてしまいました。私は、はぐれた人たちのグループと山を下ったのですが、途中から道なき道になり、出た先は本来の場所から２キロほど離れた場所でした。本隊も同じ場所に出たそうです。持っていたハンディGPSではほぼ正確な歩いた軌跡を記録することができています。そのため、地図上ではどこでルートを間違えたか、ということは把握できました。現時点では、その正しいルートから外れた地点に地図上で矢印をつけました。

今後の課題は実際のその地点を撮影することです。既に、今回撮った写真はArcGISで地図にし公開しています。（http://bit.ly/1uvhF3T）今回は、その製作画面をご紹介します。地図の赤い矢印の番号と写真が一致していて、矢印をクリックするとその写真が右に表示される仕組みです。撮影時の人工衛星の都合上、正しい位置情報ではないものもいくつかあるので、それらは画面上で微調節をしています。また、各写真にタイトルやコメントをいれることができるので、簡単な説明をいれています。ぜひアクセスしてご覧ください。

私は今回初めてハイキングコースを歩きました。道通りに歩いて、2手にわかれている道は確認して歩いていましたが、気付いたら間違えた道を歩いていたので、より地図の必要性を感じました。地図上で矢印をつけた地点以外でも道がよくわからず一度引き返したところもあったので、できるだけ早く地図を完成させたいなと思いました。

木村　縁（本会、会員）



【事務局からお知らせ】

さがみはら地球温暖化防止フォーラム～未来へつなぐ温暖化対策～にて事例報告します

本会の相模湖嵐山の森、小原本陣の森で活動する学生団体ForestNovaがこのシンポジウムにて、「若者が行う地球温暖化防止活動」として事例報告をします。他にも、高校生の活動や、ForestNovaが毎年出場している「全国大学生環境活動コンテスト」通称「ecocon」の活動も発表されます。

ForestNovaの嵐山、小原以外での活動について興味がある方ぜひお越し下さい。

日時
　12月6日(土）13:00から16:00
会場
　ユニコムプラザさがみはら
　最寄り駅、相模大野駅
申し込み
　相模原市コールセンター
　電話042-770-7777

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
　領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
　また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
　振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版